

# 序

# 第1章 計画の枠組み

## 1-1 計画の位置づけ

### 1 基本構想

新しい時代の新宿区のまちづくりを進めるにあたり、基本理念、新宿区がめざすまちの姿、まちづくりの基本目標及び区政運営の基本姿勢を明らかにするもので、地方自治法第2条に基づき定める、まちづくりの基本指針です。

### 2 総合計画

基本構想を受けた区の最上位計画であり、基本構想の「めざすまちの姿」の実現に向けたまちづくりの方向性を明らかにした「まちづくり編」と、基本構想の「区政運営の基本姿勢」を受け、「まちづくり編」を推進し、下支えする区政運営の方向性を示す「区政運営編」から成り、区の各分野の個別計画を総合的に調整する指針です。

なお、総合計画は、都市計画法第18条の2に基づく「都市マスタープラン」の性格をあわせもつものです。

## 1-2 計画期間

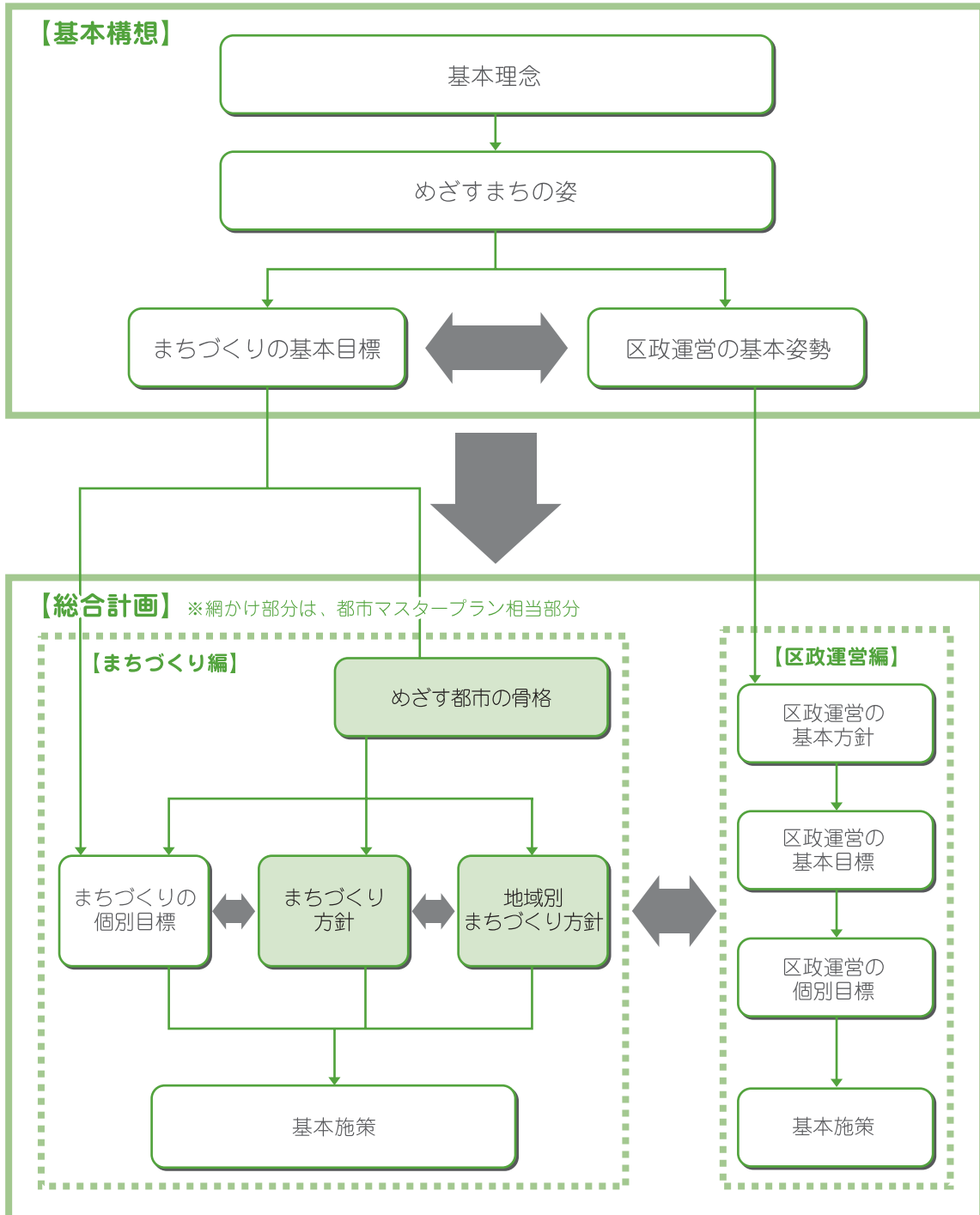
### 1 基本構想

想定時期は、平成37（2025）年とします。

### 2 総合計画

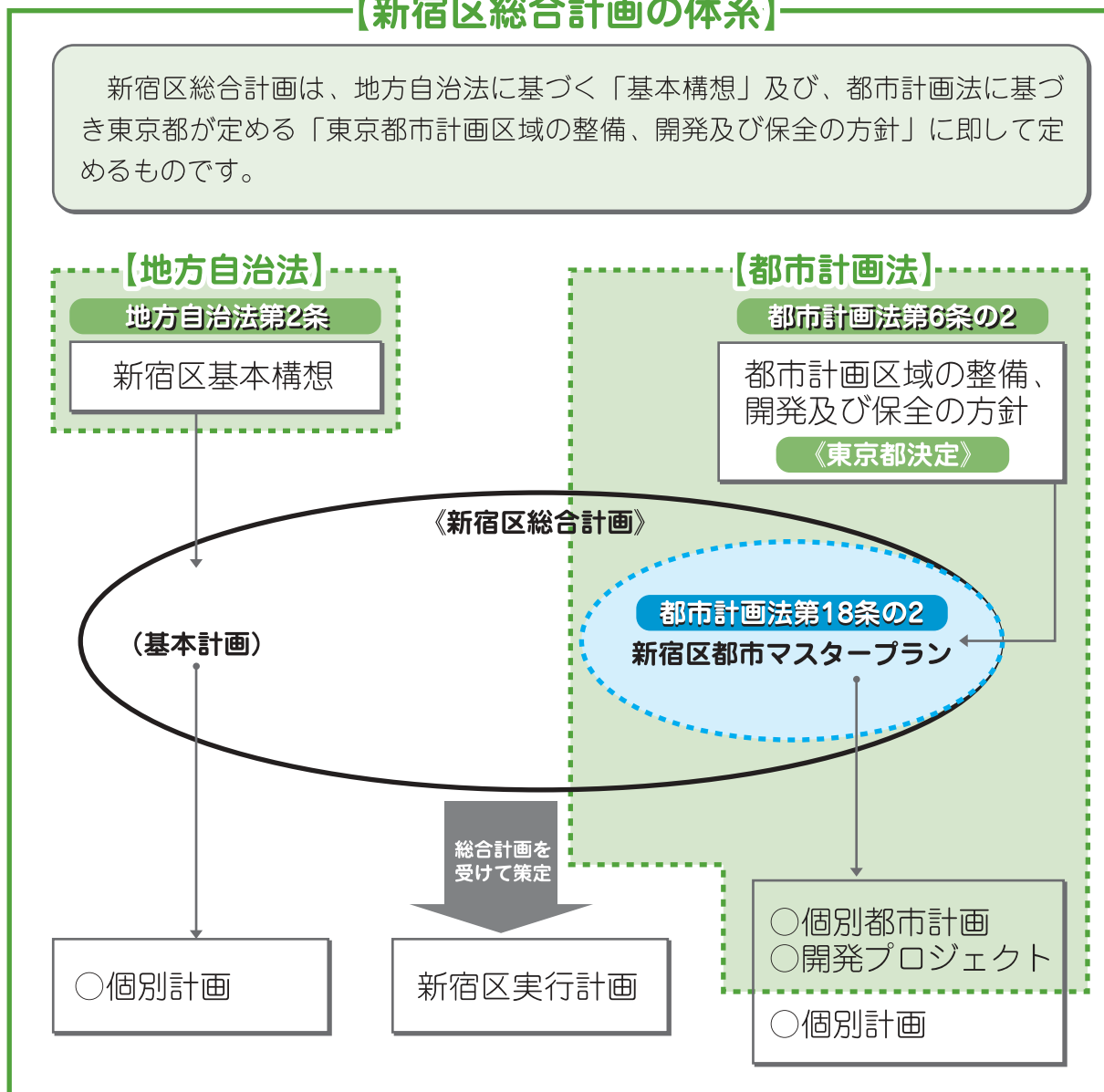
計画期間は、平成20（2008）年度から平成29（2017）年度とします。

# 1-3 計画の構成



## 【新宿区総合計画の体系】

新宿区総合計画は、地方自治法に基づく「基本構想」及び、都市計画法に基づき東京都が定める「東京都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」に即して定めるものです。



## 第2章 計画の前提

### 2-1 地形・歴史

#### 1 地形

新宿区は、武蔵野台地の東端に位置し、平坦な部分と、武蔵野台地を刻む谷の部分からなっています。武蔵野台地とは、関東平野西部の荒川と多摩川に挟まれた地域に広がる台地で、今から250万年前までの時代に火山灰の降下、海面の上下変動、地盤の隆起などによって形成されたものです。新宿区は、ほぼ南から北へ標高が低くなっていく階段状の地形をしています。この階段状の地形は、淀橋台・豊島台・本郷台・低位面の4段に分けられます。淀橋台は、四谷地域から新宿駅周辺に至る標高30～35m以上の一番高い台地面で、豊島台は落合地域周辺と大久保から牛込にかけてみられる標高20～25mくらいの台地です。新宿区は、この二つの台地と、それらに挟まれて東中野から早稲田付近まで東西に伸びる10m程度の低地面から主になっています。この低地面に沿って神田川、妙正寺川及び外濠などの水辺が、新宿区の外周を沿うように取り巻いています。

このような地形の高低差は、多くの由緒ある坂や、視覚変化に富む街並みを生み出し、地形に根ざした斜面緑地などは、貴重な自然として現在も残されています。

また、淀橋台地と豊島台地は、主に洪積層からなり、比較的古い時代に堆積したことから、安定した地盤だといわれています。中でも柏木から西新宿にかけての地域は、東京層と呼ばれる地耐力の大きい層で、西新宿の超高層ビル群を支えているのはこの硬い地盤です。また、新宿区で最初に整備された甲州街道は、淀橋台地の尾根道です。このように、新宿区のまちづくりは、自然の地形とも深い関係があります。

#### 2 歴史

##### □ 古代の新宿

古代の新宿区域は、武蔵野台地の東端に位置する穏やかな農村地帯でした。大化の改新によって律令制度が形成されると、武蔵国豊嶋郡に所属し、農民たちは租調庸などの税を納入し、兵士として、九州や東北に派遣されました。地区内にはさほど広い水田もなく、人口も多くなかったため、わずかに平将門の伝説があるのみで、歴史の表舞台に登場することはありませんでした。

##### □ 中世の新宿

中世の江戸は、太田道灌の江戸築城、北条氏の江戸進出により、政治的にも重要性を持つようになり、近世の発展の基礎が築かれました。仏教文化も広がりを持ち、関連の遺物が残されています。

## □ 近世 江戸時代の新宿

江戸時代の新宿には、大きく四つの面がありました。第一に内藤新宿にみられる甲州街道の宿場町、第二に牛込・四谷にあった江戸の場末としての町、第三に高遠藩内藤家、尾張藩徳川家の大名や旗本・御家人たちの住む屋敷町、第四に戸塚、落合に広がる農村としての新宿です。江戸が発達するとともに、これらは次第にその姿を変えていきましたが、それぞれの特色が入り交じりながら新宿が形成されました。

大名屋敷の跡は、現在大規模な公園や公共施設として、新宿区の骨格のみどりを形成し、下町低地に沿った神田川や江戸城の外濠は、新宿区の外周を巡る水とみどりの環となっています。

江戸時代のまちづくりとして特筆すべきは、玉川上水の開削です。玉川上水は、江戸市中の水道のために設けられたものですが、多くの分水路がつくられ、武蔵野面の水利の状況を一変させ、それを契機に武蔵野面の開拓が大いに進められました。新宿御苑のわきを流れていた玉川上水は、現在暗渠化されていますが、終点である四谷地域センターには水番屋跡の碑が残されています。

## ★ 区名の由来

江戸に幕府が開かれた1603（慶長8）年の翌年に、日本橋を起点として五街道が定められました。このうち、甲州街道は日本橋から甲府に至る幹線でしたが、日本橋から最初の宿場である高井戸までの距離が長く、旅人が難儀していました。そこで、名主・高松喜六らの願いにより、1698（元禄11）年、その中間にあたる地に宿場の設置が認められ、翌1699（元禄12）年、正式に宿場開設となりました。この宿場は、内藤氏が幕府に返上した屋敷地に置かれたことと、新しい宿の意味から「内藤新宿」と呼ばれ、新宿の地名の起こりとなりました。

## □ 近代 近代国家の成立と新宿

近代の東京は、1868（明治元）年、日本の首都となりましたが、それにもなって新宿区域では市街地が激変、農村部が徐々に変化しはじめました。なかでも、1885（明治18）年の新宿駅開設、1923（大正12）年の関東大震災は、今日の新宿をかたちづくるうえで、大きなできごとでした。

特に、関東大震災（1923〔大正12〕年）を契機に、東京の人口中心が西側に移動するにつれて、都心と郊外の交通結節点として、新宿の地位が高まりました。牛込・四谷周辺や、甲州街道・青梅街道沿いには、高密度な市街地が形成され、市街化の最も遅れた落合地域でも、大正末期から、高台で高級住宅地の造成が始まりました。

その後、第二次世界大戦の戦火で区内の63%が焼失しましたが、戦後の復興によって再び高密度な市街地が形成されました。

さらに、1968（昭和43）年の副都心建設事業を契機に、新宿西口において大規模な土地の高度利用が実施されることとなり、超高層ビルの開発が相次ぎました。

西新宿の開発は当初、民間による業務ビルやホテル建設が主体でしたが、1991（平成3）年には都庁舎も新宿に移転するなど、官公庁を含む新都心として現在のような機能の集積をみています。

---

**★ 現在の新宿区の成立**

現在の新宿区は1947（昭和22）年3月15日に、かつての四谷・牛込・淀橋区が統合して成立しました。「新宿」という名称は歴史的な由来のほか、新宿御苑や新宿駅が全国的にも有名であり、普遍的であるとして採用されたものです。

## 2-2 人口の推移等について

### 1 人口の推移

平成19（2007）年1月1日現在の新宿区の総人口は、307,415人です。  
このうち、住民登録人口は277,078人で、外国人登録人口は、30,337人です。  
区の住民登録人口は、昭和38（1963）年の395,399人を頂点に、1970～90年代を通じて減少し続けました。  
最近では都心回帰の流れもあって、平成13（2001）年以降増加に転じています。  
平成14（2002）年と平成19（2007）年と比較すると、11,486人増加しています。この5年間では、年平均2,300人程度増加しています。  
外国人登録人口は、平成14（2002）年と平成19（2007）年と比較すると、3,755人増加しています。この5年間では、年平均750人程度増加しています。  
新宿区の総人口は、平成14（2002）年と平成19（2007）年と比較すると、15,241人増加しています。この5年間では、年平均3,050人程度増加しています。

### 2 人口の推計

#### (1) 住民登録人口の推計

住民登録人口は、平成25（2013）年ごろまで人口増加が続くと見込まれていますが、その後は緩やかに人口減少に転じると推計されています。

#### (2) 外国人登録人口の推計

外国人の人口は、年々増加傾向にあり、今後も増加傾向は続くものと見られます。

#### (3) 総人口の推計

新宿区の総人口は、平成27（2015）年ごろまで増加が続くと見込まれていますが、その後は緩やかに人口減少に転じると推計されています。

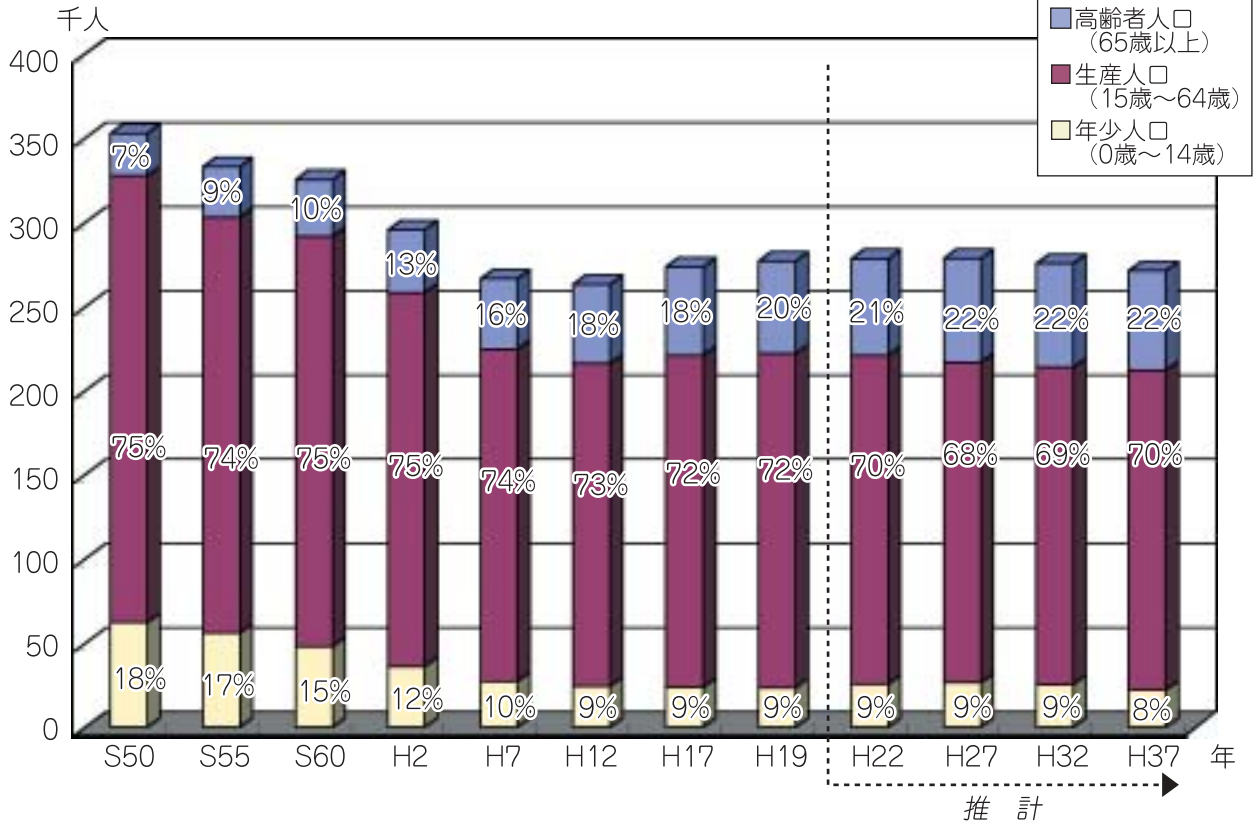
#### 【人口の推計方法について】

今回の人口の推計は、比較的人口動態の安定している場合の推計として適している「コーホート<sup>(注)</sup>変化率法」を用いて算出しています。

(注) コーホートとは…同年（または同時期）に出生した集団のことをいい、コーホート法は、その集団ごとの時間変化を軸に人口の変化をとらえる方法で、5歳ごとの人口変化率を算出し、その変化率を適用して推計をしたものです。



新宿区の年齢別人口の推移と推計（住民登録人口）

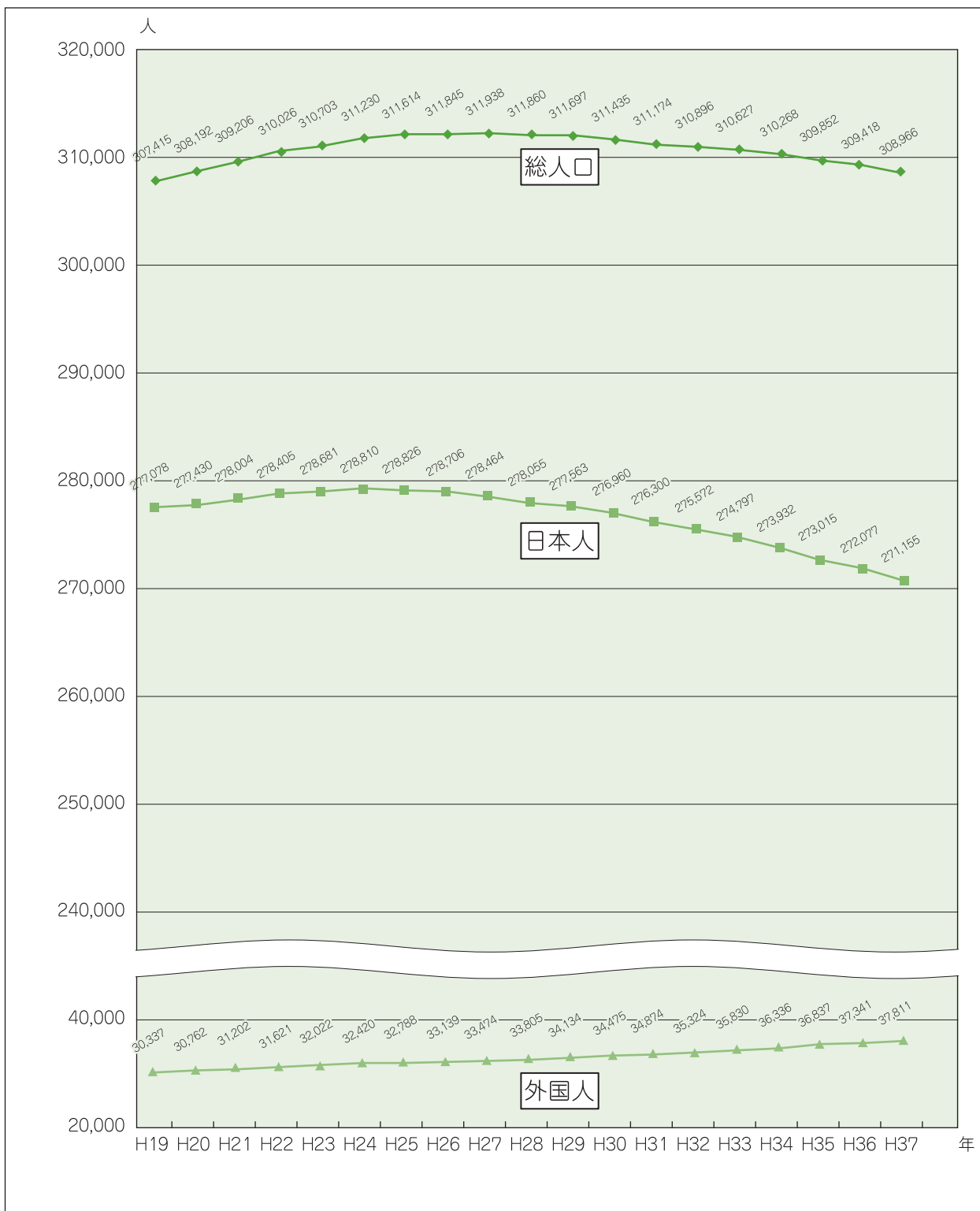


総人口の推計

[単位：人]

年次	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)
総人口	307,415	308,192	309,206	310,026	310,703	311,230	311,614	311,845
日本人	277,078	277,430	278,004	278,405	278,681	278,810	278,826	278,706
外国人	30,337	30,762	31,202	31,621	32,022	32,420	32,788	33,139
年次	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	平成31年 (2019)	平成32年 (2020)	平成33年 (2021)	平成34年 (2022)
総人口	311,938	311,860	311,697	311,435	311,174	310,896	310,627	310,268
日本人	278,464	278,055	277,563	276,960	276,300	275,572	274,797	273,932
外国人	33,474	33,805	34,134	34,475	34,874	35,324	35,830	36,336
年次	平成35年 (2023)	平成36年 (2024)	平成37年 (2025)					
総人口	309,852	309,418	308,966					
日本人	273,015	272,077	271,155					
外国人	36,837	37,341	37,811					

総人口の推計（グラフ）



### 3 年齢構成

人口の年齢構成をみると、年少人口（15歳未満）が平成14（2002）年と平成19（2007）年とを比較すると、23,875人から23,698人へと0.74%減少したのに対し、高齢者人口（65歳以上）は、同じ期間に49,555人から54,864人へと10.7%増加しており、依然として少子・高齢化が進んでいます。

また、高齢者人口の割合は、昭和50（1975）年の7.1%から平成14（2002）年には18.7%に上昇し、平成19（2007）年には19.8%になっています。

一方、年少人口の割合は、昭和50（1975）年の17.6%から平成14（2002）年には9.0%に低下し、平成19（2007）年には8.6%になっています。

また、厚生労働白書及び東京都人口動態統計年報によれば、平成17（2005）年の合計特殊出生率は全国平均が1.26、東京都は1.00、新宿区は0.79であり、全国で最も低い東京都と比較しても、さらに低い水準になっています。

### 4 世帯構成

平成17（2005）年の国勢調査によると、区の世帯数は173,560世帯です。

平成7（1995）年から平成12（2000）年までの5年間で、14,294世帯（10.2%）の増加、平成12（2000）年から平成17（2005）年までの5年間で、18,874世帯（12.2%）の増加となり、増加傾向は続いています。

世帯の構成は、平成19（2007）年1月1日現在の住民基本台帳でみると、162,567世帯のうち単身世帯が99,392世帯で、全世帯の61.1%を占めています。この単身世帯のうち、15.3%が高齢単身世帯です。

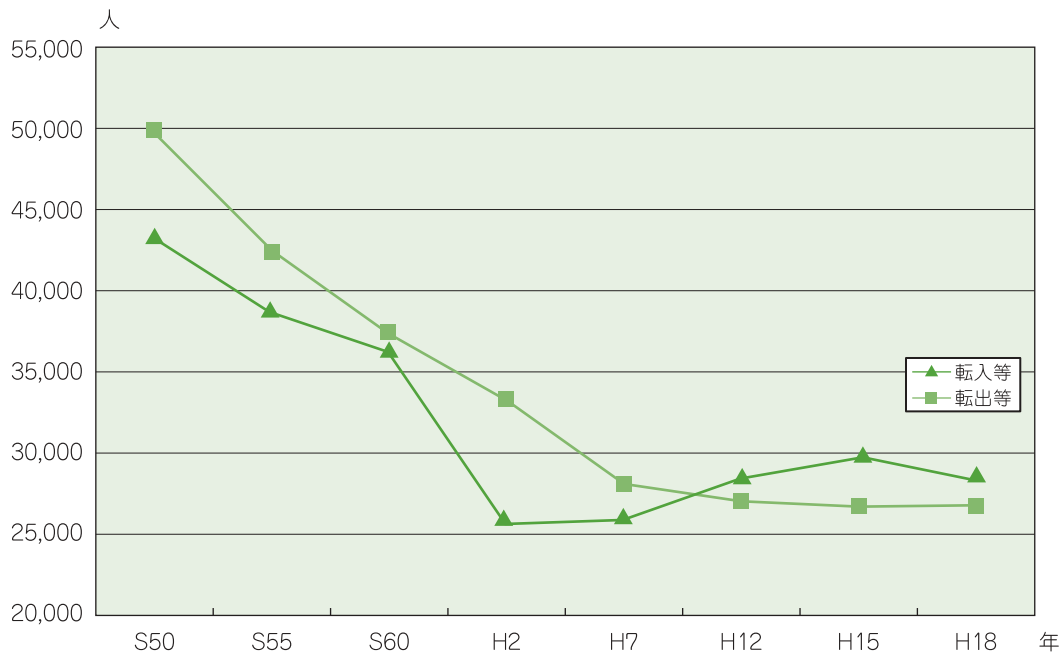
また、一世帯当たりの家族数も、昭和40（1965）年には3.08人だったのが、平成14（2002）年には1.79人に、平成19（2007）年には、1.70人まで減少しており、単身世帯の増加が大きく影響していると考えられます。

### 5 人口動態

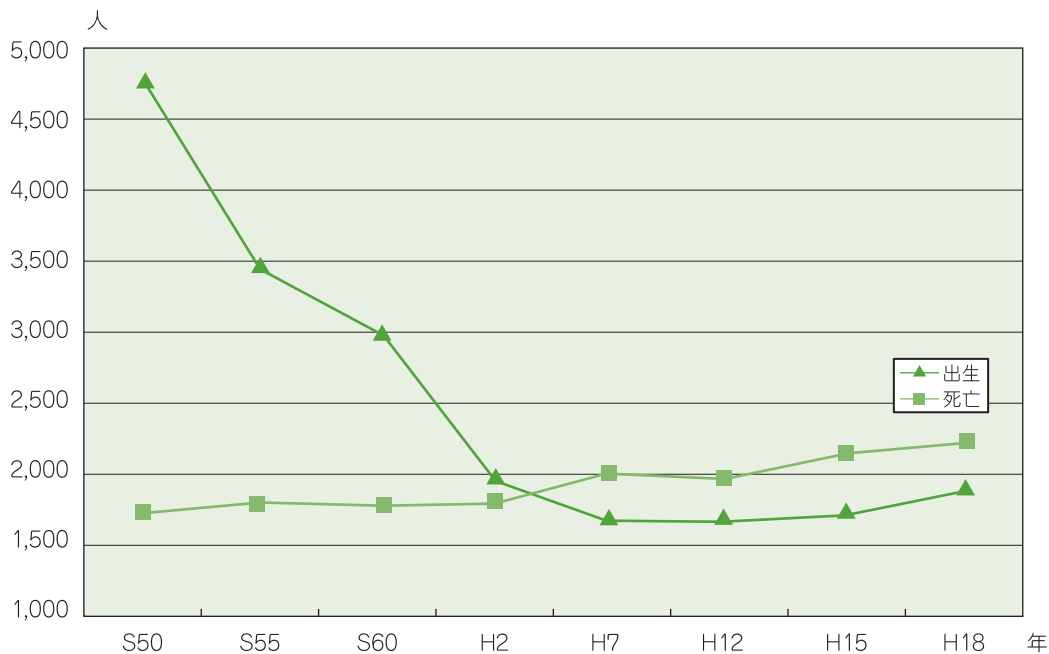
新宿区では、これまで転入者より転出者が多いことが、人口の減少する最も大きな要因でした。しかし、平成7（1995）年以降は、転入者と転出者との差が縮まり、平成9（1997）年以降は、転入等が転出等を上回っています。

また、自然動態においては、出生数及び死亡数ともに、横這いもしくは微増傾向にありますが、平成3（1991）年以降、死亡数が出生数を上回る状況は今もお続いています。

住民基本台帳による人口動態（社会動態）



住民基本台帳による人口動態（自然動態）

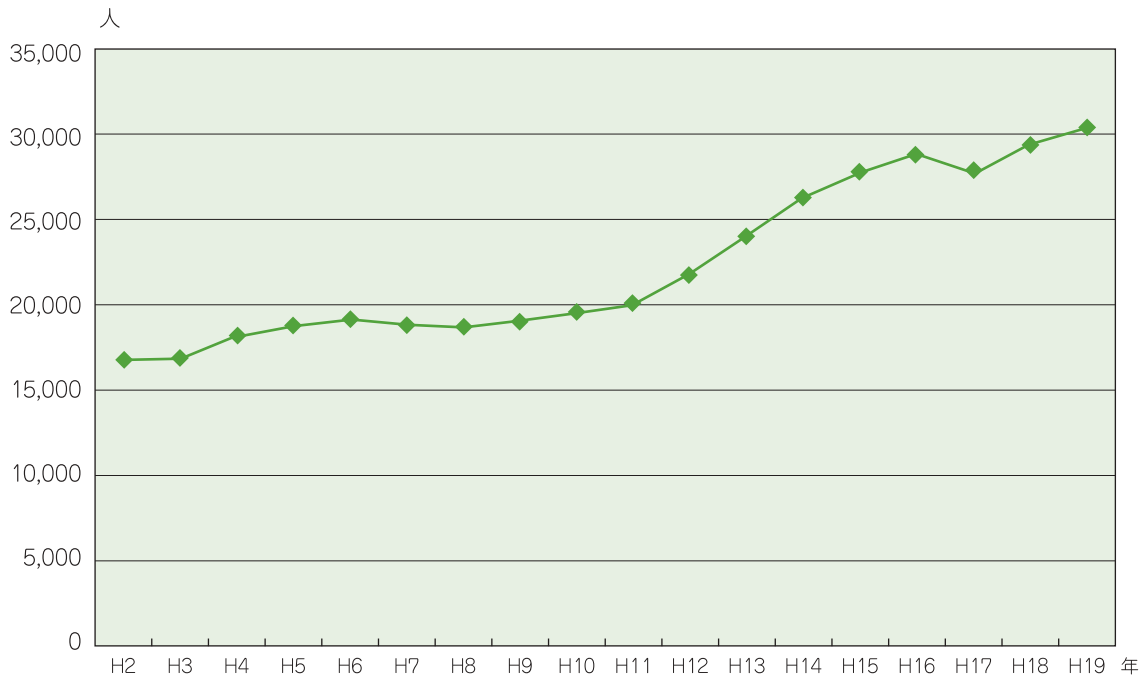


## 6 外国人

昭和54（1979）年頃まで5,000人台で推移していた外国人登録者数は、昭和55（1980）年以降増加し始め、平成14（2002）年には、26,582人が登録をしていました。

平成19（2007）年1月1日現在では、30,337人が登録しており、全人口に占める外国人の割合は9.9%となっています。新宿区に登録する外国人の数は23区で一番多く、人口に占める割合においても、港区に次いで二番目に多くなっています。

外国人登録人口の推移



## 7 昼間人口

平成17（2005）年の国勢調査によると新宿区の昼間人口は770,094人であり、平成12（2000）年の国勢調査（798,611人）から引き続き、減少しています。